昭和53年3月1日　名古屋電気高等学校新聞　第59号

名電高新聞

編集兼発行
名電高新聞部
印刷所
共生印刷株式会社

校訓
誠実
勤勉

卒業生諸君に送る

学校長　後藤　淳

昭和五十三年、午年の春三月、三カ年の高校生活を有意義に過し、めでたく卒業される諸君に、心から、おめでとうと祝詞をおくります。

さて、高校生活の三カ年は人生にとって、重要なウエイトを占める時期であると思いますが、諸君は本校の校是である誠実・勤勉を貫いて好ましい青年像を確立し、それぞれの科のもつ特性にしたがって、基礎的な学問技術を身につけ、社会に巣だつ基本的条件を身につけることができました。今は、未知の将来にむかって出発する万全の準備が整えられスタートラインに並んだのであります。

明日から直ちに実社会にはばたく者、更に上級学校を志して、学問の最高を極めようとする者など、それぞれ志す道は異なっても、目標は一つであると信じます。即ち諸君が本校で学びとった学力や技術を土台として雄々しく信ずる道に邁進し、社会のために貢献することのできる人物になってほしいと希望します。

中学から高校への生活はいわば温室生活であって、社会人としての生活は風雪身にしみるきびしいものであり、諸君の想像以上けわしいものであります。本校で培われた名電魂を発揮し、常に明るく楽しい雰囲気を自分のまわりに築き上げて、努力されることを希望いたします。

科学技術の進歩は一刻一秒とどまることなく、絶え間なく発展をつづけています。この時代に生き明日の飛躍を期するには、常に健康に留意していただきたいと思います。明るく楽しい生活の基本は健康であります。

諸君の年令は、鍛練するに適期であり、運動を通じていちだんとたくましい身心に育っていただきたいと思います。

さて、諸君の思い出となる一つに、新運動場における運動会があったと思います。あれ以来整備をいそぎ学校の大きな誇りの一つとなりました。卒業の諸君が記念に植樹してくれます木々が茂り、春には、桜の満開につつまれる運動場となることと思いたのしみです。時折は母校を訪ね運動場をおとずれて、先生方とも歓談し、同窓生の一員としていつまでも母校との絆を強めた生活をしていただくよう希望いたします。

諸君の前途は風雪の道であると同時に栄光の道でもあります。自重自戒、将来の大成を願いはなむけの言葉といたします。

卒業される皆さんへ

同窓会長　加藤義春

このたびめでたくご卒業される皆さん、本当におめでとうございます。心からお喜び申しあげます。

ご両親をはじめ、暖かく見守ってこられた周囲の方々も、その喜びはいかばかりかと存じます。私も名古屋電気学園の基礎となった、名古屋電気学校を昭和七年に卒業したものですが、その当時のことがしのばれる次第です。

今回学園より卒業される皆さんに対し、何か一言との要請がありましたので、その任にあらずとは思いますが、四十数年に亘る社会生活の中で身を以って感じ得たことの二、三について申しあげ責を果したいと思います。

先ず第一に社会に出る皆さんは、立派な社会人になることが立派な企業人になることであることを銘記される必要があると存じます。

日本が自由世界第二位の経済力を持ち、世界経済の推進力としての責を果たすには、日本国内は勿論、諸外国の中で尊敬される日本人でなければなりません。健康にして、誠実であり、謙虚であり、謙虚にして礼儀正しい行為、素直な敬愛の精神を持った人柄こそ立派な企業人として、その企業の発展につくすことになるのではないでしょうか。

第二に専門分野においては、創造性をもった不断の努力こそその人の実力を向上することになるのではないでしょうか。

のろい亀の足も速い兎の脚に勝るの偶話のとおり、あわてず確固たる基礎実力をもち、幅広い思考と創造性の発揮をつみ重ねる皆さんこそ新しい時代の若者として期待されるところと考えます。

第三には、国際的にまで視野を拡げることが必要があると思います。一九七〇年代は、画期的発明という点では、華々しいものはないが、技術移転による総合技術の成果を揚げる時代とも言われており、また情報化社会とも言われておりますが、日本が世界の中においても諸情報交換の中に占める位置は大きく、今後世界という一つの舞台の中で行なわれる会議は、益々増大するものと思われます。このような観点から、国際人としての心がけを持つことが必要と思います。

以上気付いた三つの事について述べましたが、これらは、私自身が絶えず願望しながら果たし得なかった夢を皆さんに話したものとお考え下されば幸です。

先日故後藤鉀二先生の七回忌に列席する機会を得ましたが、厳しさを内に持った、温容な先生の像を拝見し、瞬時在学時代を思い出し、ご冥福を祈った次第です。

後藤鉀二先生の御尊父の創立者・喬三郎先生の将来の電気エネルギーの重要性と、その発展のために名古屋電気学講習所を創設された先見性と、学園を発展させ今日に至らしめた鉀二先生の偉大な熱意と行動に今さらながら深く感銘する次第です。

その先生の言行録に〝やればできるはじめから駄目だと思い込んだら何事もできないとことんまでやりぬけ〟の言葉がありましたが、この卒業される皆さんが、この言葉を座右の銘として、人生にすすまれんことを願うものであります。

（附記）
加藤会長は昭和七年卒業の大先輩で、電検一種に合格され中電に入社。現在は同社取締役・研究開発担当として斯会に重きをなしておられる。

論説

われわれの問題

われわれ高校生には、いろんな問題がある。そうした問題に対し、先生方はどのように考えておられるのか、またわれわれはどう考えたらよいのかについて考察を進めてみようと思う。

まず、たびたび指導を受けるタバコの問題がある。法律上未成年者はタバコを吸ってはいけないのだが、現実にはかなりの生徒が常識みたいに吸っているし、先生達もそのわりに言わなくなってきているきらいがある。タバコを吸う原因としてあげられるのは、興味本位で吸ってみたら、やめられなくなったとか、見栄カッコつけで吸っているとか、吸わないと友達（グループ）にいれてくれないなどである。

タバコというものは、身体に決して良くない。害の怖しさを知っていても、先のことだから考えることはない。だから、今タバコの害について何を言っても、その場だけの聞き流し的なことで終わってしまう。残念なことだと思う。それは悪意をもった聞き流しというのではなく、他人事であるという無関心さであり、孤立した自己主義の現れなのでもある。

見つからないように、隠れて吸う。そんなにして吸うよりも、二十歳になれば法律上、堂々と吸えるのだから、それまで待てばよいので、これは理の当然である。高校生であるわれわれは、もっと他の方面に興味をもつべきではないだろうか。もっと他にする事があるのではないだろうか。

しかし、そのような興味を抱かせることの難しい環境（学校）に、われわれはいるのではないだろうか。

次に、我校では頭髪検査が問題になっている。毎月一回行なわれる頭髪検査、頭髪に厳しい学校は、市内には少ないように思う。検査が厳しいということを問題にするのではなく、生徒のひとりひとりに、理解され納得できるような親切な指導がほしいもので、実習などの場合髪が長いと機械に巻きこまれてしまうからと言われたそうだが、生徒側は劣等感をもつことで終わってしまう。ある公立では先生がこう言ったという。「わが校の生徒の中には、頭髪の乱れもなんのその、時間を惜しんで勉強にうちこんでいる者もある。それは低劣なカッコよさを望んで整髪しないのではない。」と。

ある意味で、うらやましく思うが、わが名電高の生徒にも、この気魄があってしかるべきで、自己の精神的向上の問題として把握し、うつろな外面的なカッコよさから脱出しなければならない。この毅然としたものを我々に与えてほしい。

先生と生徒のつながりについて、討論会を開いてみた。初めに先生の理想像が次のように出た。個人個人の立場を理解してくれて、生徒のことを真剣に考え、生徒と対等に話をしてくれる先生などがそれで、嫌われる先生は、強制的で、独裁的、事務的で差別をするような先生など。日常の学校生活の中でわれわれは、なかなか先生と話し合う機会が少ない。先生との結びつきは、中学時代に比べると高校時の方がある筈だと思う。だから、もっと積極的に自分から打ちとけていってみるべきだと思う。悩みや考えていることを話してみると、意外に話を聞いてくださるという発見があり、先生とのつながりも親密になっていくだろう。

恒例の学校祭・文化祭・運動会などは、どの高校にもある行事であるが、わが校においてもひとつ盛り上がりが見られない。

全校三千の生徒が、活気に満ちたふん囲気に包まれて、有意義な楽しいものであるようにしたいものである。

それには、ひとりひとりが目標も定め、文化祭なり運動会の内容をたかめるために協力することしかない。青春の熱情を傾けて、作品に催し物に努力することである。自分たちの手でつくり上げた喜びをかみしめることである。

一部の者の手にまかせ、冷やかに傍観する、または批判するだけで終ってしまう者のあることは残念である。

学校行事は、このようにあってこそ期待されるものになると思う。

このような問題の他にも、今の状態での高校生活の勉強の意義とか、生徒会活動、学校格差、男女交際などいろんな問題が、まだまだあるが、こうした問題について、われわれは、真剣に考えたことがあるだろうか。関心はあるのだろうか。関心を持っていても、要求の実現や話し合う場がないために、どうしても無関心になってしまうのではないだろうか。一人で考えていてはいけない。みんなに呼びかけ、これらの問題について話し合い、対処していくことで、高校生活を有意義にすることができるし、問題も少なくなっていくだろう。希望の実現と生きがいを求め、二度とない高校生活をもっと充実したものにしようではないか。

卒業に際して

E3A

武藤良則

この三年間を、振り返ってみると数々の思い出が浮かんできます。

私がこの学校に入学するについては、一つの目標がありました。それは「やろうと思ったことは、最後までやりぬこう」ということです。その目標があったから、今の私があるのだと思います。

でも、ふっと考えてみると、この三年間何もやらずに過ぎたような気もします。勉強についても運動についても。

楽しかったことは、やはり修学旅行です。この旅行を通じて、新しいものとの出会いのうれしさ、別れの悲しさを知らされました。

出会いといえば、人間の出会いというものは偶然によってきまるものです。おさな友だち、小中学校の友だち、そして今の友だちとたくさんいる。でもその偶然によって、その人々の考え方や生き方が変わることも少なくないと思います。ですから良い友だち、良い出会いを大切にしたいものです。

悩んだこと、それは将来について、進学しようか就職しようかと迷ったこと。一時は進学しようとも考えましたが、もともと私が、この学校を選んだのは、工業科に入って、専門知識を身につけて就職しようと考えていたからです。

就職、「これによって、将来の進路がきまる」ということを考えると恐ろしくなる。現在、その時にきめたことが将来において重くのしかかってくるのかもしれません。後から後悔しても遅いのです。その時にやっておけばよかったとか、ああしておけばよかったとか思っても今と言う時は二度と戻ってこない。ですから、今を悔いのないように、有意義に暮したいものです。

入学した当時分からなかったことがあって迷ったこと、運動会、修学旅行で、阿蘇山に登って寒かったこと、就職が決まって喜んだこと、三年生の遠足、自動車の免許を取ったこと、を思い出に……。

最後に、この春に社会人になるについて私は、この学校に入学するときと同じ気持ちになって「前進・前進」あるのみです。

E3－1

恒川博好

高校における三年間を振り返って見ると、楽しかったこと、辛かったこと等、それらすべての出来事が、高校時代の思い出となって頭に浮かんで来ます。

私は、一・二年生の間、時計の振り子のように、学校と家を行ったり来たりしていただけのような気がします。

と言うのも、私に何かやってやろうという、目的がなかったからです。

何か目的を持つということは、自分の生きがいを持つということにおいて、とても大切なことで、これから先、生きて行く上に重要なことだと思います。

三年になり、私は、大学進学という目的を持つことによって、一・二年に比べて、学校へ行く気持ちも変わりました。

そして、充実した日々が送れるようになり、高校生活を満喫した気分になりました。

高校生活を有意義にすごすには、人と人との付き合いも、また大切なことです。

友人には、同じ年代で、同じような悩みを持っているだけに、両親や先生に言えないことでも、相談することができます。

また私が、高校という、学問を学ぶ場で、学問を通して、友人を持てたということは、私にとって、何ものにも代えられないほどのうれしさでした。

高校生活のうちで最も印象強く残っていることは、学生生活最後の修学旅行です。

ひとつ屋根の下で、友人と枕を並べて寝た夜、寒さをこらえて登った阿蘇山等楽しい思い出ばかりで、高校生活をしめくくるのにふさわしい旅行でした。

高校生活も後わずかとなった今、私には、高校生活への名残り惜しさと、卒業してからの期待と不安で胸がいっぱいです。

M3A

伊藤正彦

学窓を出て実社会へ―。これは私たちにとって、生活における百八十度の転換である。希望に満ちた、未知への出発でもあるわけで、正直なところ期待と不安が半々というところだ。だが、卒業を間近に控え何よりも感じることは、この三年間、親しく交わってきた友人と別れなければならないことである。フランスの哲学者は「人生最高の宝は友情である」と言った。私が高校生活を楽しく過ごせたのも、この友人たちの友情のおかげであったと思う。

今考えると、私はたいへん良い環境で勉強することが出来たと思っている。三年間は時には色々なことで苦しいことも多かった。それらを何とか切り抜けて来た。これが高校に入ってからの私に、努力するということが、どんなに大切かを教えてくれた。このことがこれからも先、私にとってどれだけのプラスになるかはわからないが、人生とはともかく、努力することでなければならない。そこに可能性が生まれるのではないだろうか。

刻々と押し追ってくる卒業。今頭に思い浮かぶことは、授業中にみんなで笑ったことや、昼休みに野球をしたことなど楽しい思いでばかりである。私はこれで良いと思っている。自分にとっては、一日一日が充実していたと思う。

私の高校生活は、夢のように過ぎ去ったというのが実感である。今になって、あれもしたかった、これもしたかったと思う。しかし今私は高校生活を終え、人生の第二ラウンドに立とうとしている。そこは、学生時代とは違い、努力をしなければならないことが多い世界であるかもしれない。でも私は、高校生活を通じて身につけることの出来たことを生かして、今後の人生を力強く生きて行きたい。

R3B

上野利洋

「卒業」もうこんな言葉を聞くような季節になってしまった。我ながら月日のたつのが早いのに驚いている今日この頃。入学して以来、いろいろな物が変わってきた。自分の考え、自分の身体・担任・教室・校名、そして神領にできた本校のグランド等。

しかし入学して以来変わらないものもある。両親の私に対する愛情、先生方の生徒に対する配慮、そして校訓の「誠実・勤勉」これらは、これからも変わらないでほしい。

他にも変わらないものもある。たとえば、その一として始業時間の二シーズン制、その二として朝礼の時に上映される映画の内容、その三として生徒会の実際活動、その四として先生方と我々生徒との関係。これらは、生徒の意欲と自信を高めるために検討していただきたいものと思う。

私が思うには、その一として挙げている始業時間のことですが、二シーズン制は他校にもあまり例を見ない、陽の長さに応じて生徒のことを考えた良い方法だと思います。でも始業時間そのものが現在のままでは、私を含めてほとんどの生徒の場合ラッシュ・アワーと重なるのです。ですから時差通学に協力するうえでも、始業時間に工夫がほしい。その二の映画のことですが、特にエレクトロニクス関係の映画の古さが目立つので、新しい映画を購入してほしい。その三の生徒会の実際活動ですが、形式的なマンネリズムに陥り活気がない。生徒も名電発展を願い劣等感を除去したいと念願しているので、その意味で好意的指導的な立場で、もっと生徒の意見もきいてほしい。生徒の自主性を根気よくつくりだすことを通して、受動的な姿勢や気分を変えることになるのではないかと。

最後に、先生方と生徒との関係ですが、指導のうまいベテランの先生の存在もさることながら、若い先生方のバイタリティ溢れる指導を期待したい。一年生の時の厳しい指導はどこへ行ったんでしょうね?。

いろいろと書きましたが、「誠実・勤勉」を忘れずに誇りを持って卒業して行きたい。

G3A

久保典久

私の高校生活における一番の目標は、大学へ進学するということでした。もちろん他にもいろいろやりたいことはありました。しかし高校三年間を思い返すと、どんな時でも私の心の中に大学進学という言葉があったのです。そして大学に進学することが決まり、この三年間ずっと思い続けていた夢がかなえられた今、私の心は高校生としての（たった一つではあったけれども）自分の第一の目標を成し遂げたという満足感と、誇らしい気持ちに満ちあふれています。

私は中学生のころ、兄が名電高に入り、そして愛工大に入った経過をずっと見ていました。そして次に私が高校に入る番になった時、私はすぐに名電高に入ろうと思いました。これはただ、他の高校よりも名電高のことを多少はよく知っていた、ということだけの単純な理由からだったのかもしれません。私は、学校群と名電高の二校を受験しました。そしてその結果、私は名電高に入学することになったというわけです。

私には、高校に入ってからいろいろやってみたいことがたくさんありました。しかしいざ入ってみると、勉強に追われて（それほど勉強に力を入れたわけではないのですが）他のことをする暇は、全くといっていいほどありませんでした。そして月日のたつのは早いもので、あっという間に二年が過ぎてしまいました。始めは、あれもやってみようこれもやってみようと思っていたのですが、今考えてみると、思っていたことは何も出来ず、ただ大学へ進学するという目標だけは、忘れずに持っていたような気がします。

そして大学への進学を目ざして三年目の二学期に、愛工大への推薦入学の話が出ました。私は始め、薬学の方面に進学したいと思っていましたので、たいへん迷いましたが、結局は愛工大の推薦試験を受けることになりました。そして私は、私の高校生活における、たった一つの目標を達成することが出来たのです。

私は、この高校生活を通して、私にとって一番大切なことは、ある一つのことを最後までやり抜くことであり、またそれを成し遂げてこそ、真の満足や誇りを得ることができるのだと思いました。そして今、私はこの満足感や誇りと同時に、これからの私の義務や責任を痛切に感じています。

G3F

山田文夫

時の流れとはおそろしいもので、もう三年間という日々が過ぎてしまった。

長いようで短かった三年間。そう、月並みな言葉なんだけれど本当に今の実感なんだ。思い出をたどってみれば入学の時から数多くの友人、先生との出会い。授業のことやら、テスト・部活動・修学旅行や各行事、それに……と、思い出をたどれば、三年間にまつわるエピソードは数知れず、語り出せばきりがない。悔いのない日々を過ごしてきたつもりだが、あれもしたかった、これもしたかったと思い出されて来る。ただ一部を演じたにすぎなかったのだろうか……。あこがれはあくまでも数多く、そして、あくまで遠く……。

一日一日の日々を大切にして来たつもり。気の向くままに、時に流されて日々を過ごせば苦しみや考えさせられることにぶつかる事は数少い。それが悪いとは必らずしも言えない。しかし、感動するような喜びや悲しみには出くわさないのではないだろうか。じっとしていても時は過ぎる。動き回っていれば石ころにつまずくこともあるだろうし、人にけなされるような事もあるだろう。じっとしているよりは石ころにつまずいてころんだ方がいい。どうせ同じ料理を食べるならおいしく食べたい。どうせ過ごすなら一日一日違った日々を過ごしたい。それが悪い一日であろうとも昨日と同じ日々を過ごすよりはずっと良い。もっともっと何かを求めてぶつかって行きたい。あこがれ多き夢を追う人でありたい。どうせ歩くならまっすぐの道よりも坂道の方が何かがあるんじゃないだろうか、冒険者になろうじゃないか。

三年間の中で出会った友人や先生や数多くの人々、それにまつわるエピソードをかみしめて行こう。いやだいやだこんな学校、服装やら頭髪やら、その他の事、愚痴をこぼしてばかりいたがこの学校が好きだったんだ。自分の通って来た学校だもの。知らず知らずにこの学校の雰囲気にも慣れてしまって、慣れてしまえばこっちのもの。楽しかったと言える。

振り返ってみれば三年間。時の経つのは速い。長いようで短かった三年間。月並みな言葉だがやはりぴったりだ。

声

優先席

地下鉄やバスには、いつからか『優先席』という奇妙な座席が存在するようになった。

この『優先席』についてみんなの考え方は一体、どのようなものなのだろうか。僕の場合、これを目にすると、何故、こんなものを作らなければならなかったのだろうか、ということと、これがもたらす害についてだ。設置するに到った理由は、いろいろとあることだろう。例えば、最近の若い者は、お年寄りに対して、ちっとも席を譲らなくなったという事。あまり人の事も言えないが、見て見ぬ振りをする者が多いし、目を閉じて座っている者もまた多い。元来は、お年寄りが立っていれば若い者が座を譲るのが、普通のことなのだろう。それが近頃では…。

また、お年寄りにも、この『優先席』は、あまりいい影響を及ぼしていない様な気がする。お年寄りの中にはこの席を『優先席』ではなく『指定席』と考えている人も多いようだ。だから、まっ先にこの席の前に来て、譲って貰って当然という顔で何も言わないで、座り込んでしまうということを見たりする。中には、それを上回る学生もいて、全く関係がないというようなのもいる。

しかし、この様な悪い例ばかりが全体ではないことも、たしかに事実だが…。

こんな『優先席』というレッテルがなくても、席を譲ることが出来るようになりたいものだ。

ベクトル

ベクトルとは方向と長さを持った線分である。そしてそれは矢印で表わされ、距離は力を表わし、方向はその力をどちらへ向けて放出するかを決定づけている。これは何かに似ていないだろうか。力を実力に、方向を目標に置き換えれば、このベクトルは人間そのものになるのではないか。

例えば、A君は将来自分の店を持つ夢を持っている。そして、そのためにはまず店を経営していくための充分な知識と資金がいる。だから彼は考える。知識をつけるために学校へ行き、そして同じ経営の会社に入社する。会社で学びながら貯金をし、それらが充分になったら開店する。――つまり、これがA君の、現在から彼の店が開店するまでのベクトルなのだ。A君がもしこの先、この店を開店させたとしたら、それは目標までの努力と、それと背中合わせに存在する実力があったからだといえる

理想――そう言ってしまえば、それまでであるが、理想こそ最も良い目標になるのではないか。その時その時に目標を立てて、実行して行けば、その人生＝ベクトルの総和は必ず行きつく先に、自分の生涯で求めた最大の何かをつかむはずである。

煙草

相変わらず学校で煙草を吸う生徒が多いようだ。実際にそういう光景を目にした者も多いことだろう。そんな度に感じるのは、何故高校生が煙草なんかを吸うのだろうということだ。

『吸いたいから吸うに定まっているだろ』とか『誰もお前なんかに迷惑かけてないぞ』などと答える者もあるかもしれない。果たしてほんとうにそうだと言えるだろうか。吸いたいから吸うという事と食べたいから食べるという事か、もし同じ欲求ならばそれも許されるかもしれない。しかし、煙草を吸いたいなどという欲求はむしろ好奇心という言葉で置き替えた方が適当なのではないだろうか。「今までに一度でも煙草を口にしたことがある者」と問われれば、おそらく高校生の半数位（いや、事によるともっと多いかもしれない。）は、『はい』と答えるだろう。僕自身も、そのうちの一人だ。年齢が増すにつれ煙草の馬鹿らしさも判って来て、吸いたいなどとは思わなくなった。この話がそのまま高校生の喫煙に当てはまるかどうかは判らないが、基本的には大した差がないだろう。つまり、喫煙などというものは好奇心から出発しているのだと思う。それに高校生の喫煙の場合、力の誇示という要素が非常に大きいようだ。それが、学校内での喫煙というものにつながっている大きな要因と言ってほぼさしつかえないだろう。それから、喫煙者には他人への迷惑という考え方が非常に薄いようだ。これは世間一般の大人全体に対しても言えることで、ラッシュアワーのホームで平気な顔をして吸っているのなどは、他への心配りが欠けているとしか言いようがない。吸わない者にとって煙草の煙りというのは実に不愉快なものなのだ。

高校生はもっと、煙草というものを自己中心的な側面からではなく見つめて欲しいと思う。そしてまた、今、煙草を吸っている人がいたら、それは単なる好奇心ではないのかなんてことも考えてくれたらなと思う。誰のためでもない。自分自身のためなんだから。

地震

ここ数年、相模湾－駿河湾－遠州灘－熊野灘を結ぶ一帯で、M8.0以上の大地震が、起こるといわれている。

事実、一八五四年の遠州灘地震から一二〇年、一八九四年の濃尾地震から約九〇年たった今、明日、大地震が、起こっても、何の不思議もないのだそうだ。なんとか予知はできても防ぎようのない地震に対して、どうすればよいのか。

よく言われることだが、地震が、起ったならば「冷静に行動すること。」と言われるが、まずその前に、自分達の身の回りが、どの程度に安全であるかを確かめてみなければならないと思う。

私たちが、一日の生活の約二分の一を、費やす場所、つまり、この学校の場合、どの程度安全なのであろうか、一人一人が、一度考えてておかねばならないと思う。

シキシマパン
合資会社
紅扇
千種区上野町5の39
☎711－4434

ヨギソのパン
ヨギソ製菓株式会社
名古屋市昭和区川名本町1の10
TEL (751) 2858 2859

CANADA DRY
CANADA DRY
名古屋市西区堀越町4丁目34番地
名古屋西営業所　TEL (052) 523－1306

健康の環を世界に
広げる森永乳業……
毎日牛乳を飲んで
立派な身体を作りましょう
森永牛乳　玉木販売所
千種区上野町五の六五
TEL (711) 2235

愛知県芸術選奨文化奨励賞受賞

吹奏楽部―数年来の活動が認められ―

文化を奨励し、文化団体を応援しようと、本年から設定された愛知県芸術選奨文化奨励賞の第一回授賞に、本校の吹奏楽部が選ばれ、その栄誉に輝いた。

これは、一昨年の訪中演奏をはじめ、本年度の全日本吹奏楽コンクール・全国マーチングバンドコンテストでの金賞受賞等、幅広い部活動が認められたもの。

授賞式は、二月十五日県庁二階会議室で行なわれ賞状と楯、記念品としてクラリネット三本を贈られた。

昨年の六月十二日、横浜文化体育館において開催された全日本マーチングバンド連盟主催の、全国マーチングバンドコンテストに、中部代表として出場。みごと金賞を獲得した。

また、吹奏楽の甲子園ともいわれる全日本コンクールは、十一月五・六日東京杉並区の普門館で開催されたが、本年も駒を進めることが出来た。

課題曲　大栗裕作曲「吹奏楽のためのバーレスク」自由曲　アーロン・コープランド作曲の「エル・サロン・メヒコ」を、四千人の聴衆を前に、臆することなく堂々と演奏し、二度目の金賞を得た。

この演奏に対し、審査員の保科洋氏から「たいへんみごとな演奏、今回で最も高く評価した演奏」との好評を得ている。

恒例の吹奏楽部演奏会は去る一月十六日（月）午後三時から、名古屋市民会館大ホールにおいて、満員の聴衆を集めて開催された。

特に本年は、春の選抜野球の開会式入場行進曲の編曲者として、またコンクールの審査員としても高名な辻井市太郎先生を、ゲストコンダクターとして迎え、別表のようなプログラムで行なわれた。

一年のあゆみ

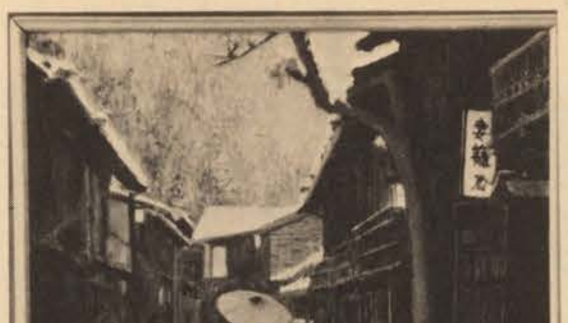
4・2　第49回選抜高校野球、対箕島戦応援
5・3　ダイナミックバンド&バトンフェスティバル　勤労会館
5・15　バンド&バトンコンテスト中部大会　金賞　豊橋体育館
6・12　バンド&バトンコンテスト全国大会　金賞　横浜文化体育館
8・21　中日吹奏楽コンクール招待演奏
8・28　愛知県吹奏楽コンクール　金賞
9・23　東海吹奏楽コンクール　金賞
10・16　名古屋まつり　市中パレード
10・17　本校文化祭演奏会
10・30　中日吹奏楽コンクール本大会　招待演奏
11・6　全日本吹奏楽コンクール　金賞
11・12　ナゴヤバンドフェスティバル出演
1・16　第13回定期演奏会　名古屋市民会館ホール

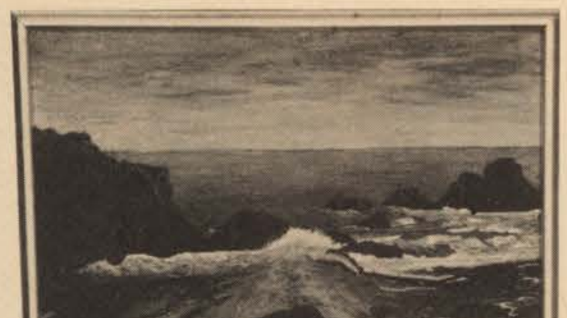
第13回定期演奏会プログラム

―Ⅰ―	
■ 吹奏楽のための　交響的瞬間	………兼田　敏
■ 吹奏楽のための　哀歌	………兼田　敏
■ エル　サロン　メヒコ	………アーロン・コープランド／マーク・ヒンズレイ
	フルートソロ：水野一平
―Ⅱ―	
■ アルルの女第2組曲より「メヌエット」	………G・ビゼー／三戸知章
■ フルート　ロイヤル	………D・ベネット
	ゲスト指揮　：辻井市太郎
―Ⅲ―	
■ チゴイネル　ワイゼン	………P・サラサーテ／辻井市太郎
■ ファンタジア　フォー　バンド	………辻井市太郎
―休　憩―	
―Ⅳ―	
■ ステージドリル「エキサイティング　ブラス」	ドラムメジャー：岩瀬豊彦
―Ⅴ―	
■ 「ロッキー」のテーマ	………B・コンティ／山下国俊
■ 涙のトッカータ	………G・ローラン／浦田健次郎
■ マスカレード	………L・ラッセル／東海林　修
■ ソウル　トレイン	………L・ギャンブル&L・ホッフ／岩井直溥
■ アフリカン　シンフォニー	………V・マッコイ／岩井直溥

アナウンス：放送部／川島　博／関谷秀紀
横山浩太郎／高林和範

学校祭優秀作品集





絵画

「妻籠」　G3F　山田文夫
「海」　G2D　林　秀和

「絵画」評　井上先生

G3F　山田文夫「妻籠」

雪のふる微妙な自然の美しさを軽快なタッチで表現した力作である。近景の建物をかきこめばさらに雰囲気が出ると思う。

G2D　林　秀和「海」

海辺の岩にうちよせる波しぶきが、豊かな色彩で美しくえがかれている。岩の質感と陰影に注意して工夫すれば、いっそう良い作品になると思う。

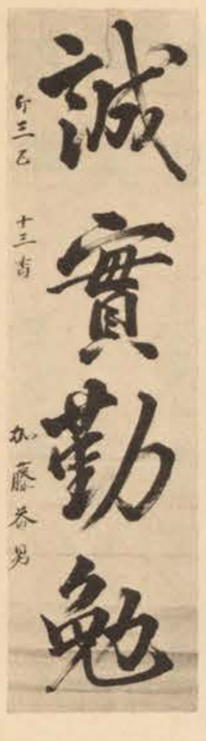
俳句

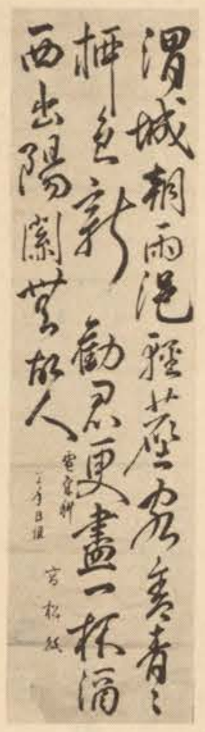
万緑の木々かさなりてさやぐかな　E3C浅井裕治
夏山の木々の間に流れ星　E3I花井定勝
夕空にどんと上がりし花火かな　M3B三浦暢雄
あぜ道に稲穂波打つ秋の夕　G3A木村好男
紫陽花のしずくに映える日の光　G3A成田和隆
夕日までとどけと高き秋の波　G3A田中寿生
静けさをとりもどしたる秋の海　E2A野村幸弘
青空に漂い浮かぶうろこ雲　E2A佐藤雄二
雨音にふと目ざめたり秋の夜　E2A酒井徳重
ぼくの目に宇宙が見える夏の夜　E1C山下　実
透明なコップに入れて夏をのむ　E1C山田清貴
夕ばえの空にも秋の香りかな　E1D一榧雅裕
赤とんぼ風にゆられて西東　E1E板倉伸次
つゆの朝道行く人の黒々と　M1C井上敏弘

評

健康増進・体力保持のため、機会あるごとに、郊外に出て、自然に親しむようにとしきりに言われている。心をいやし正大の気を養うにも、野山に接することが大切である。

そして、その時の感動。心の叫びを五七五のリズムにのせて歌ったものが俳句である。誰にもできるものなのだ。それを詩心という。うた心ある人は豊かである。



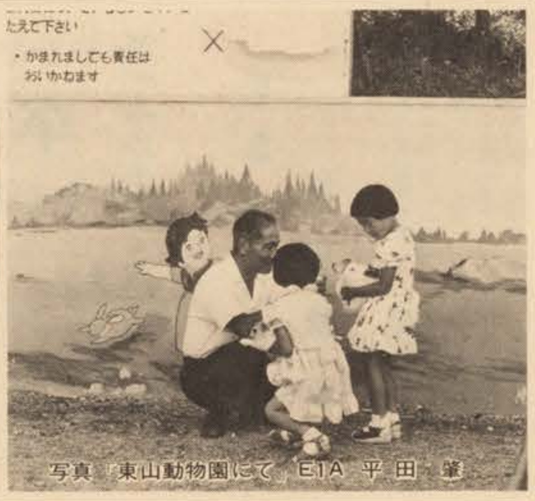

渭城朝雨浥軽塵客舎青ゝ
柳色新勧君更盡一杯酒
西出陽関無故人
宮松

「書」評　井上鎗先生

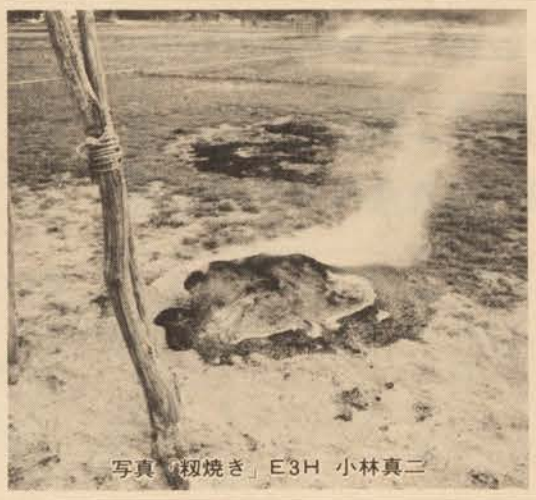
書は人なりと言われますが、これは書いた文字の姿は書いた人の心の姿であるという意味です。文字を書くときは何気なく書いておりますが、書かれた文字が自分の心の影だと思ってみるとき、書くことに真面目さと美しさを望みたいものです。

今年もたくさんの人が学校祭に出品してくれました。真面目に一生懸命に筆をふるった作品をみて、大変うれしく思いました。平常毛筆を持つことは少ないと思いますが、どうか多くの人が展覧会出品だけでもよろしいから、筆をとってみて下さい。真白の紙に思う存分の筆の跡をとどめてみて下さい。

加藤君と高松君の作品を掲げましたが、私は両人に接したことがありません。しかし二人の心の姿を作品を通してみることができます。じっと二つの作品をみつめて二人の人柄を偲んでみて下さい。どんなイメージが浮かんできますか。


たえて下さい
・かまれましても責任はおいかねます

写真「東山動物園にて」E1A　平田　肇



写真「籾焼き」E3H　小林真二

「写真」評　杉浦先生

東山動物園にて　E1A　平田　肇
ASAHI PENTAX sp・super-Takumar 1：3.5／28・1／250秒・F5.6・ネオパンss

東山動物園シリーズの一点であるが構成を非常にうまくまとめた作品である。背景の看板と三人が一致しており、ハイジが何か呼びかけている様子が何とも面白い。人物の表情もよく、良いシャーターチャンスを捕えている。ネガの調子も良い。ただ右下端の手足が気になる。もう少し左から撮るとさらに良い作品になったと思われる。

籾焼き　E3H　小林真二
ニコンF2 Photmic・ニッコール28㎜・F3.5 1／125秒・F8・KODAK SAFETY5060

岐阜の東濃地方に出かけた際に撮影した一枚である。秋の稲刈りも終り冬近しとした寂しさが感じられる。狭杭と籾焼きが何とも言えないまとまりをしている。後方に風景が入っているので的を絞る意味でトレミングを要する。

野球部報告

部長　鈴木猛男

"四万平方米春日井グランド着々と整備さる"

昨秋大運動会を開催した神領グランド。東側に三百米トラックを中心に約三千平方米の観覧席も、芝生を移植し芽の出る春を待つばかり。西側は左塁九二米、右塁九〇米の野球場、一応の形と砂入れも形通りすみ完成まではまだ月日がかかるけど庄内川堤防上よりみたる全景、全くすばらしい。敷地北隅にはベージュの二階建二棟の野球部合宿舎と共同宿舎が並んでグランドと調和し、近々ポプラ等の植樹がされると又一段と美しいグランドになるでしょう。

"合宿所移転なる"

昨年末十二月十八日、大型トラック十台、小型トラック十二台分の大移動は、小雨ふる中に完行されて、部員の日夜にわたる整備作業で日毎に変容しつつある。

合宿所生活は次の様な歴史を踏んで、その都度改良新築、改修と大きさ、美しさを増し、遂に高校専用球場となった。

昭和四十年四月より愛知郡日進町大字米野木字三ケ峰に、合宿訓練を開始、丸三年半（現在名商大校舎向い台地）辛苦に堪え、開校以来はじめての選抜大会に出場したのもこの頃だった。

そして四十四年十月廿八日、豊田市八草町八千草の愛工大校地東南隅に、軽量鉄骨平屋建野球部宿舎を新築移転、八年二カ月間。

夏の甲子園と第二回目の選抜と二度この八草で味わった。この八年間は全面的に充実して来たと思う。新入生の勧誘や、練習にしても、グランド整備にしても、かなり恵まれていた。今からみるとすばらしい環境であった。しかしこの二ヵ所も建設作業にはかなりきつかった。特に通学路の雨水による土砂流失、これには正月早々シャベルで道路を直して年頭に出かけた位で、それは大変でしたし今ではなつかしい想い出となりました。水は移転した頃には少なく、合宿所下に井戸を掘り、上水と並用したこともあり、可成り余分な経費も投資された様でした。しかしグランド補修の土砂には恵まれ、一輪車で簡単に搬入、すぐ練習の出来たことはうれしかった。移転の日は朝から終日雨だった。そして又々春日井移転も雨だった。

私は最初本校野球部の監督として赴任、岡崎より三ケ峰に移転した折も雨で、トラックにシートをかぶせて人里はなれた一軒家に来たものでした。以来丸と十一年間監督生活をし、一昨年春から部長として野球生活をつづけている。

しかしこれからが大変だと覚悟をし、先ずグランド建設に精励している。後三年もしたらすばらしい球場で思う存分鍛えて、今度こそはみんなに誉められるティームで甲子園へのぞむ覚悟である。

私はこの春日井球場は人生の最終地と考え、全てを投入して終りたいと心に決め、整地にしても練習にしても大切に一日を送りたい。

今後も以前同様先ず精神教育を第一に、野球生活を通して人を作りたい。次に技術を身につけさせ常に学校長の云われる"和"の心の中に根性のある野球を教えていくつもりである。常にきびしさの中にゆとりの持てる人間を作り、ゲームをさせ卒業させたい。これが私の考えである。どうか今後も若い監督と一生懸命努力する選手に一層のご理解とご指導がいただけます様、改めてお願い申し上げますと共に、日頃御理解いただいている学校当局に感謝し、今後も精進することを御約束とする心算りです。

秋以後の戦績

卓球部

第五回全国高等学校選抜卓球大会、（昭和五十三年一月六日〜七日）於斎徳館

予選リーグ

本校　三対四　秋田商（秋田）
本校　一対四　大濠高（福岡）
本校　四対一　七尾高（石川）

この結果決勝トーナメントへは出場ならず。

第十七回東海卓球選手権大会（於・岐阜）

ジュニア男子シングルス
（出場六名）

第四回戦
足立　2―0　佐原（静・浜工）
井上　2―0　前田（三・津工）
鈴木　2―1　渡辺（愛・桜丘）
柴田　2―1　稲吉（愛・蒲東）

第五回戦
足立　2―0　宇田（岐各務原）
井上　2―0　伊藤（静・浜工）
鈴木　1―2　真弓（三・津工）
柴田　0―2　伊藤（愛・桜丘）

準々決勝
足立　1―2　吉田（愛・桜丘）
井上　2―0　真弓（三・津工）

準決勝
井上　2　21―14　21―17　0　菊地（岐・中商）

決勝
井上　2　21―13　21―18　10―21　1　小道野（三・上野商）

第七回後藤杯愛知卓球選手権大会（於・斎徳館・愛和会館）

ジュニア男子シングルス
（出場八名）

第三回戦
柴田　2―0　橋本（愛・桜台）
天川　0―2　菊地（岐・中商）
井上　2―0　杉下（愛・一宮）
長崎　2―1　前田（三・津工）
馬場　0―2　真弓（三・津工）
足立　2―0　古市（三・津工）

第四回戦
柴田　0―2　牧野（三・津工）
井上　2―1　山口（愛・桜丘）
長崎　2―1　真弓（三・津工）
足立　2―0　石黒（愛・惟信）

準々決勝
井上　2―0　長崎
足立　2―0　前川（三・高田）

準決勝
井上　2　21―19　12―21　21―11　1　足立

決勝
井上　2　22―20　21―19　0　小道野（三・上野商）

34秒の差　優勝を逸す

陸上競技部

第28回全国高等学校駅伝競走大会愛知県予選会が12月13日に行なわれた。史上最高の28チームが参加し、午前11時豊橋市牟呂町三郷名宝前をスタート、豊橋港で折り返す7区間42・195キロのレースである。当日は雨に見舞われ最悪のコンディションとなった。本校からは一年生4名、二年生3名といった下級生主体のチーム編成であったが良く健闘し、本校のベストタイムの2時間10分15秒という全国予選2番目という好記録を出した。しかし、20年連続出場という中京高校に僅か34秒離され無念の二位。全国大会に出場することが出来なかった。

成績（記録）は次のようで大接戦であった。

1位中京2時間9分41秒
2位名電2時間10分15秒
3位城西2時間13分15秒
4位福江2時間14分13秒
5位市工芸2時間17分27秒
6位大同2時間18分58秒

◎本校区間成績

○で囲んだ数字は区間の順位を示す。

1位（10キロ）④　有田哲治30分39秒
2区（3キロ）②　坂本　昇8分42秒
3区（8キロ）①　重　幸男25分20秒
4区（8キロ）②　堀田靖弘25分20秒
5区（3キロ）①　中野弘己9分11秒
6区（5キロ）④　杉山明浩15分30秒
7区（5キロ）①　国立幸伸15分33秒

◎第26回瀬戸地方近郊駅伝競走大会成績（瀬戸）

1位1時間38分39秒
5位1時間47分49秒

◎第30回渥美半島駅伝競走大会成績（伊良湖岬）

1位2時間19分35秒
12位2時間35分22秒

◎平和公園クロスカントリー大会（平和公園）

3位堀田靖弘15分06秒
5位有田哲治15分12秒
6位坂本昇15分32秒

◎青少年公園ロードレース大会（青少年公園）

3位有田哲治32分47秒
4位堀田靖弘32分51秒
5位坂本昇33分14秒
6位重幸男33分33秒

六階級中五階級優勝

ウェイトリフティング部

我部は本年県大会団体優勝、東海大会4位、インターハイ団体出場。個人にても、二名の選手が出場、あすなろ国体少年の部に、52キロ級E3A渡辺学敏11位、56キロ級M3A三浦博之11位の成績であった。

11月13日県体育館にて、県新人戦が行なわれて、六階級中、五階級優勝。その成績は次の通りである。

52K級E1E西田史郎優勝
〃G1C近藤幸太郎3位
56K級M2A橋本浩之優勝
〃M1B宮本奉孝3位
60K級E1E宮本尚美優勝
〃E1E小池幸泰2位
67.5K級M1D平尾豊2位
〃M1A吉田浩己3位
75K級E2E佐藤至宏優勝
75K級M1C古田誠3位（体重差）
82.5K級E1E森孝治優勝
〃R1B福森繁明3位

新運動場にての大運動会

本年度の戦績

バスケットボール部

本年度をふりかえってみる。県総体に三連勝し、東海総体初優勝と、創部以来最強と自信を持って、全国総体に臨みましたが、二回戦で敗退という結果に終りました。以下新人戦、私学祭優勝の結果は次のとおりです。

一、全国総体

一回戦
名電高　111　55―19　56―27　46　岩見沢東

二回戦
名電高　82　38―52　44―34　86　栃木工

一、全国選抜優勝大会（名古屋北予選）

名電高　111　53―19　58―15　34　名西
〃　109　59―28　50―28　56　松陰
〃　97　40―23　57―20　43　菊里

決勝
名電高　80　39―42　41―37　79　名城高

一、新人戦（名古屋北地区）

名電高　98　54―18　44―20　38　春日井
〃　89　38―30　51―14　44　東海工
〃　95　43―19　52―10　29　菊里

決勝
名電高　83　39―42　44―36　78　名城高

一、県大会

名電高　114　57―17　57―18　35　西尾
〃　131　64―11　67―15　26　津島
〃　85　38―27　47―24　51　滝

決勝戦
名電高　83　35―31　48―32　63　名城高

国体に出場

剣道部

多年の宿願であった国体初出場を果たした。剣道は、三河武士の流れをくんでいるせいか三河地区を、中心に、強豪が、ひしめいていて、その一角に食い込む事は、容易ではなかった。たまたま本年三河地区からの入部を得て、部員の技倆はいちだんの躍進をとげた。

特に平坂中出身の山田久男（一年）選手は、部を代表して県の代表選手に選ばれ、青森国体に出場し、かがやかしい成績を残し、名電高に剣道部ありと、大いに気を吐いた。

これを機会に、第二、第三の山田君を養成し、県の優勝を目ざし部員一同、今年こそはインターハイを、目標に頑張っていきたいと思っている。

●昭和52年度主な成績

- 国体出場
- 県新人戦第三位
- 名北新人戦優勝
- 名北一年生大会優勝
- 千種大会優勝

随想　盲人と光

教諭　太田道治

「ブラックボードは二つの単語の合成語である。ブラックは黒、ボードは板という意味だ。するとブラックボードの意味がなんだか分かるだろう。」答えがすぐ返って来ない。彼らは私の説明が理解出来ないのか首をかしげている。

「黒と板と続けて読んでみよ。分かるだろう。日本語だ。分からないかね。」

私の言葉も少しいきり立って来る。すると一人の生徒がはっきり答えた。

「先生、僕達には漢字がありません。」

盲学校の寮へ、レクチャサーヴィスに二年程出掛けたことがあったが、私にとってすべてが新らしい経験だった。彼らは私の想像していた程暗くはなく、むしろ明るいくらいだった。それによく物が見える。私の年を聞いても殆んど間違いなく答えていた。年には年の音質があると言う。ところが、私の近所では、私は大正生まれで通っているから不思議である。

盲人の音に対する感覚は驚くほど鋭い。廊下を蟹のような格好をして走って来る生徒も、一米ほど手前ではったり止まり、軽く会釈するようにして通りすぎていく。

英語の発音、抑揚も私の声をテープに吹き込んだようによく似る。男子はギター、女子は琴をやる生徒が多い。琴の先生に聞いても、普通の人より上達が速いと言う。私は英語だけでなく、あらゆる面で彼らの中へ飛び込んで行った。まず点字を読む練習をやってみた。目を閉じたり、蒲団の中にもぐりこんだりして、点字の上に指を何回も何回も滑らせてみたが、結局読めずじまいで終った。盲人ルールによる卓球も野球もやった。どちらも彼らの相手ではなかった。

盲学校の運動場を自転車で横切って通ったが、その音を聞きつけ、必ず二三人の生徒が集まって来た。自転車に乗せろと言うのである。私は初めは彼らの言うことを聞き入れてやらなかったが、しまいには許してやった。乗るとすぐ転ぶ者もいれば、我々とほとんど同じようにうまく乗れる者もいた。その生徒は運動場を思い切り走った。塀にぶつかりそうになると、私はわめくように大声をかけてやった。急にハンドルを切って転んでも、別に痛そうな顔もせず、むしろ快感を味わっているように思えた。

ある日、こんなことがあった。こっそり木に姿を隠す人の気配を感じたので、私はそっと近づいてみた。息を殺して彼の動きを待った。やがて彼は顔を太陽の方へ向けると、影絵で作る紙のような指格好をしたものを、目のすぐ前にもって行き、太陽に吠えるように大きく、時には小刻みに指の口を動かしていた。私は一歩二歩と近づいて行った。すると彼はその動作を止めてしまった。

「鈴木君、そこで何をしているんだ。」

「名電の先生ですか。」私だとすぐ分かったらしい。

「寮の先生でなくてよかった。何でもいいから先生も私の真似をしてみて下さい。」言われるままに、私は目を閉じ、彼の動作を真似てみた。目の奥でかすかな光の明暗を感ずることが出来た。彼の指の動きは一段と激しくなった。

「僕はところかまわずこれをやるんです。これが僕にとって唯一の楽しみなんです。こうすれば盲人の僕にだって、光を感ずることが出来るのです。光が見えるのです。ところが目あきの先生は格好が悪いから、醜いから止めなさいと言うんです。分かってくれないんです。盲人の本当の気持を……目あきの先生には光は見えやしないんです。」

西日が校舎のガラスを真赤に染めていた。彼は夕日の光をかみしめるように味わっていた。

「今日の夕日はとってもすばらしい。」

「そんなことが君には分かるのか。」

「分かります。空気が澄んでいる。とてもきれいだ。それが僕にははっきり分かるのです。物が燃える時のような真赤な色をしている。今それが目の前でゆらいでいる。だがまもなくすると太陽は沈んでしまう。そして真暗に……」

真赤に染まった校舎のガラスも紫から黒に刻々と変わっていた。彼の指は、太陽が沈んだ時は、力なく大きな口をあけたままになっていた。耳はたれ、指の間から涙がこぼれ落ちそうな悲しげな表情をしていた。

「もういいだろう。英語のレッスンをやろう。」

私の声が聞こえないのか、返事がなかった。彼は頭の中で光をいつまでも追いかけているようだった。

編集後記

●教育の荒廃・高校生の在り方が厳しく問われている今。何を為すべきか、深く考えてみたい。

●加藤同窓会長の玉稿を熟読含味してほしい。

●卒業生諸君の感想、声欄の訴えも、充分読んでほしい。

カラープリント
当店のカラープリントは各メーカー現像所仕上げの
一級品で、なんと　35円　より各種
写真は10年〜20年後の宝です
カメラ、8ミリ　ズバリ　卸値（特定品を除く）
証明用各種撮影・スピード写真も有ります
若水カメラ　名電高前　☎（711）1869

キハラ製図器
三角定規
曲線定規
T型定規
その他製図用具一式
コクヨノート一式
名古屋電気高等学校御指定
大附通商株式会社

名古屋牛乳
有限会社　内藤乳業
名古屋市東区大幸町5の46
TEL 代表（711）2848

辞書・参考書の専門店
名古屋電気学園指定書店　正友館書店
千種区鏡池通2−13　城山中学校南
TEL（751）2717